

## 電子情報通信学会 第78回「功績賞」・第54回「業績賞」受賞

2017年6月1日に一般社団法人電子情報通信学会より、R&Dイノベーション本部の尾上 誠蔵氏は功績賞を、また無線アクセス開発部の河原 敏朗氏、渡邊 靖之氏、移動機開発部の二方 敏之氏は、「3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化」の功績により業績賞（口）項（実用化）を受賞しました。

功績賞とは、電子工学および情報通信に関する学術または関連事業に対し特別の功労があり、その功績が顕著であるものに対して、業績賞（口）は電子工学および情報通信に関する新しい機器、または方式の開発、改良、国際標準化でその効果が顕著であり、近年その業績が明確になったものに対して贈られるものです。

功績賞を受賞された尾上氏は、永年にわたり情報通信分野の研究開発に取り組み、移動通信システムに関する数々の先駆的な方式・技術の創出や普及推進を通じて移動通信サービスに革新をもたらし、豊かなICT社会の創造に邁進しました。特に第3世代か

ら第4世代に至る移動通信システムの移行期において、世代間の円滑な移行を狙ったSuper 3Gコンセプトを打ち出し、多くの革新的技術の確立と、国際標準仕様の策定および装置開発と実用化を統括・指揮し、高速・大容量・低遅延の無線アクセスネットワークであるLTEを完成させました。その後も移動通信システムの研究開発を牽引し、同システムの継続的発展と高度化への多大な貢献が評価されました。

業績賞（口）項（実用化）受賞の対象となった「3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化」は、2014年12月に新規にTD-LTE方式用に割り当てられた3.5GHz帯を効果的に展開して、移動通信の高速・大容量化を実現することを目的に、3.5GHz帯にかかわる3GPP標準仕様の早期規格化に向けた活動、高度化C-RAN（Centralized Radio Access Network）アーキテクチャの特徴を活かした3.5GHz TD-LTE方式に対応した基地局装置の開発、3.5GHz帯の効率的かつ経済的なエリア構築方法の確立などの取組みにより、3.5GHz TD-LTE方式を活用した国内初のFDD-TDDキャリアアグリゲーションによる受信時最大370Mbpsの高速通信サービスの提供を可能とした画期的なものであります。

この実用化は、広帯域で3.5GHz帯のような高い周波数のTD-LTE方式を移動通信において効率的かつ効果的に展開する手法を示したものであり、本実用化による移動通信業界への貢献は非常に高く、その業績は誠に顕著であることが評価され、今回の受賞となりました。



平成二十九年六月一日  
一般社団法人電子情報通信学会  
会長 佐藤 健

**尾上 誠蔵 殿**

あなたは永年にわたり電子情報通信分野の研究開発に取り組み、技術の創出や普及推進を通じて、移動通信サービスの革新をもたらされ、豊かなICT社会の創造に邁進しました。特に第3世代から第4世代に至る移動通信システムの移行期において、世代間の円滑な移行を狙ったSuper 3Gコンセプトを打ち出し、多くの革新的技術の確立と、国際標準仕様の策定および装置開発と実用化を統括・指揮し、高速・大容量・低遅延の無線アクセスネットワークであるLTEを完成させました。その後も移動通信システムの研究開発を牽引し、同システムの継続的発展と高度化への多大な貢献が評価されました。業績賞（口）項（実用化）受賞の対象となった「3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化」は、2014年12月に新規にTD-LTE方式用に割り当てられた3.5GHz帯を効果的に展開して、移動通信の高速・大容量化を実現することを目的に、3.5GHz帯にかかわる3GPP標準仕様の早期規格化に向けた活動、高度化C-RAN（Centralized Radio Access Network）アーキテクチャの特徴を活かした3.5GHz TD-LTE方式に対応した基地局装置の開発、3.5GHz帯の効率的かつ経済的なエリア構築方法の確立などの取組みにより、3.5GHz TD-LTE方式を活用した国内初のFDD-TDDキャリアアグリゲーションによる受信時最大370Mbpsの高速通信サービスの提供を可能とした画期的なものであります。この実用化は、広帯域で3.5GHz帯のような高い周波数のTD-LTE方式を移動通信において効率的かつ効果的に展開する手法を示したものであり、本実用化による移動通信業界への貢献は非常に高く、その業績は誠に顕著であることが評価され、今回の受賞となりました。ここに学会賞状により功績賞を贈呈し、表彰いたします。

平成二十九年六月一日  
一般社団法人電子情報通信学会  
会長 佐藤 健

**河原 敏朗 殿  
渡邊 靖之 殿  
二方 敏之 殿**

3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化  
あなたは永年にわたり電子情報通信分野の研究開発に取り組み、技術の創出や普及推進を通じて、移動通信サービスの革新をもたらされ、豊かなICT社会の創造に邁進しました。特に第3世代から第4世代に至る移動通信システムの移行期において、世代間の円滑な移行を狙ったSuper 3Gコンセプトを打ち出し、多くの革新的技術の確立と、国際標準仕様の策定および装置開発と実用化を統括・指揮し、高速・大容量・低遅延の無線アクセスネットワークであるLTEを完成させました。その後も移動通信システムの研究開発を牽引し、同システムの継続的発展と高度化への多大な貢献が評価されました。業績賞（口）項（実用化）受賞の対象となった「3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化」は、2014年12月に新規にTD-LTE方式用に割り当てられた3.5GHz帯を効果的に展開して、移動通信の高速・大容量化を実現することを目的に、3.5GHz帯にかかわる3GPP標準仕様の早期規格化に向けた活動、高度化C-RAN（Centralized Radio Access Network）アーキテクチャの特徴を活かした3.5GHz TD-LTE方式に対応した基地局装置の開発、3.5GHz帯の効率的かつ経済的なエリア構築方法の確立などの取組みにより、3.5GHz TD-LTE方式を活用した国内初のFDD-TDDキャリアアグリゲーションによる受信時最大370Mbpsの高速通信サービスの提供を可能とした画期的なものであります。この実用化は、広帯域で3.5GHz帯のような高い周波数のTD-LTE方式を移動通信において効率的かつ効果的に展開する手法を示したものであり、本実用化による移動通信業界への貢献は非常に高く、その業績は誠に顕著であることが評価され、今回の受賞となりました。ここに学会賞状により功績賞を贈呈し、表彰いたします。